

小倉百人一首 一覧表（歌順・決まり字あり）

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
なにしおわばおおさかやまのさねかずら ひとにしられてくるよしもかな	このたびはぬさもとりあえずたむけやま もみちのにしきかみのまにまに	つきみればちぢにもこそかなしけれ わかみひとつのあきにはあらねど	ふくからにあきのくさきのしおるれば むへやまかせをあらしといふらむ	いまこんといしばかりにながつきの ありあけのつきをまちいてつるかな	わびぬればいまはたおなじにななる みをつくしてもあはむとそおもふ	なにわがたみじかきあしのふしのまも あはてこのよをすくしてよどや	すみのえのきしによるなみよるさえや ゆめのかよひちひとめよくらむ	ちはやぶるかみよもきかずたつたがわ からくれなるにみつくるるとは	たちわかれないなばのやまのみねにおうる まつとしきかはいまかへりこむ	きみがためはるののいでてわかなつむ わかころもてにゆきはふりつつ	みちのくのしのぶもじずりたれゆえに みたれそめにしわれならなくに	つくばねのみねよりおつるみなのがわ こひそつもりてふちとなりぬる	あまつかぜくものかよいじふきとじよ をとめのすかたしはしとどめむ	わたのはらやせしまかけてこぎいでぬと ひとにはつけよあまのつりふね	これやこのゆくもかえるもわかれては しるもしらぬもあふさかのせき	はなのいろはうつりにけりないたづらに わかみよにふるなかせししまに	わがいおは みやこのたつみ しかぞすむ よをうちやまとひとはいふなり	あまのはら ふりさけみれば かすがなる みかさのやまにいてしつきかも	かさぎぎの わたせるはしに おくしもの しろきをみればよそふけにける	おくやまに もみじふみわけ なくしかの こゑきくときそあきはかなしき	たこのうらに うちいでてみれば しろたえの ふしたかねにゆきはふりつつ	あしびきの やまどりのおの しだりおの なかなかしよをひとりかもねむ	はるすぎて なつきにけらし しろたえの ころもほすてふあまのかくやま	あきのたの かりおのいおの とまをあらみ わかころもてはつゆにぬれつつ
50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26
きみがためおしからざりしいのちさえ なかくもかなとおもひけるかな	みかきもりえじのたくひのよるはもえ ひるはきえつつものをこそおもへ	かぜをいたみいわうつなみのおれののみ くたけてものをおもふころかな	やえむぐらしげれるやどのさびしきに ひとこそみえねあきはきにけり	ゆらのとをわたるふなびとかじをたえ ゆくへもしらぬこひのみちかな	あわれともいうべきひとはおもおえて みのいたつらになりぬへきかな	あふことのをたえてしなくばなかなかに ひとをもみをもうらみさらまし	あいまてののちのころにくらぶれば むかしはものをおもはざりけり	ちぎりきなかつみにそでをしほりつつ すゑのまつやまなみこさしとは	こいすちようわがなはまだきたちにけり ひとしれすこそおもひそめしか	しのぶれどいろにいでにけりわがこいは ものやおもふとひとのとふまて	あさじうのおのしのはらしのぶれど あまりてなとかひとのこひしき	わすらるるみをおもわずちかいてし ひとのいのちのをしくもあるかな	しらすつゆにかぜのふきしくあきののは つらぬきとめぬたまそちりける	なつのよはまだよいながらあけぬるを くものいつこにつきやとるらむ	ひどはいきころもしらすふるきとは はなそむかしのかにほひける	たれをかもしるひとにせんたかきこの まつもむかしのともならなくに	ひさかたのひかりのどけきはるのひに しつこころなくはなのちるらむ	やまがわにかぜのかけたるしがらみは なかれもあへぬもみちなりけり	あさぼらけありあけのつきとみるまでに よしののさとにふれるしらゆき	ありあけのつれなくみえしわかれより あかつきはかりうきものはなし	こころあてにあらばやおらんはつしもの おきまとはせるしらきくのはな	やまざとはふゆぞさびしさまざりける ひとめもくさもかれぬとおもへは	みかのはらわきてなぐるるいづみがわ いつみきとてかこひしかるらむ	おぐらやまみねのもみじばこころあらば いまひとたひのみゆきまたなむ

小倉百人一首 一覧表（歌順・決まり字あり）

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51
ちぎりおきしきせもがつゆをいのちにて あはれここのあきもいぬめり	うかりけるひとをはつせのやまおろし はけしかれとはいのらぬものを	たかきこのおのえのさくらさきにけり とやまのかすみたたすもあらなむ	おとにきくたかしのはまのあだなみは かけしやそでのぬれもこそすれ	ゆうさればかどたのいなばおとすれ あしのまろやにあきかせそふく	さびしきにやどをたちいてながむれば いつこもおなしあきのゆふくれ	あらしふくみむろのやまのみみじばは たつたのかはのにしきなりけり	こころにもあらでうきよにながらえは こひしかるへきよはのつきかな	はるのよのゆめばかりなるたまくらに かひなくたむなこそをしけれ	もろともにあわれとおもえやまぎくら はなよりほかにしるひともなし	うらみわびほさぬそでだにあるものを こひにくちなむなこそをしけれ	あさぼらけうじのかわざりたえだえに あらはれわたるせせのあしろき	いまはただおもいたえなんどばかりを ひとつてならていふよしもかな	よをこめてとりのそらねははかるとも よにあふさかのせきはゆるさし	いにしえのならのみやこのやえぎくら けふここのへにほひぬるかな	おおいやまいくののみのちのおけれは またふみもみすあまのはしたて	やすらわでねなましものをさよふけて かたふくまでのつきをみしかな	ありまやまいなのさきはらかせふけば いてそよひとをわすれやはする	めぐりあいてみしやそれともわかぬまに くもかくれにしよはのつきかな	あらざらんこのよのほかのおもいてに いまひとたひのあふこともかな	たきのおとはたえてひさしくなりぬれど なこそなかれてなほきこえけれ	わすれじのゆくすえまではかたけれは けふをかきりのいのちももかな	なげきつつひとりぬるよのあくるまは いかにひさしきものとかはしる	あけぬればくるものとはしりながら なほうらめしきあさほらけかな	かくとだにえやわいぶきのさしもぐさ さしもしらしなもゆるおもひを
100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76
もしきやふるきのきばのしのぶにも なほあまりあるむかしなりけり	ひともおしひともうらめしあじきなく よをおもふゆゑにものおもふみは	かぜそよぐならのおがわのゆうぐれば みそきそなつのしるしなりける	こぬひとをまつほのうらのゆうなぎに やくやもしほのみもこかれつつ	はなさそうあらしのにわのゆきならで ふりゆくものはわかみなりけり	おおけなくうきよのたみにおおうかな わかたつそまにすみそめのそて	みよしのやまのあきかせさよふけて ふるさとさむくころもうつなり	よのなかはつねにもがもななきさぐ あまのおふねのつなてかなしも	わがそてはしおひにみえぬおきのいしの ひとこそしらねかはくまもなし	きりぎりすなくやしもよのさむしりに ころもかたしきひとりかもねむ	みせばやなおじまのあまのそでだにも ぬれにそぬれしいろはかはらす	たまのおよたえなばたえねながらえは しのふるこのよはよりもそする	なにわえのあしのかりねのひとよゆえ みをつくしてやこひわたるへき	むらさめのつゆもまだひぬまきのはに きりたちのほるあきのゆふくれ	なげけとてつきやはものをおもわする かこちかほなるわかなみたかな	よもすがらのおもうころはあけやらて ねやのひまさへつれなかりけり	ながらえばまたこのごろやしのばれん うしとみしよそいまはこひしき	よのなかよみちこそなけれおもいる やまのおくにもしかそなくなる	おもいわびさてもいのちはあるものを うきにたへぬはなみたなりけり	ほどとぎすなきつるかたをながむれば たたありあけのつきそのこれる	ながからんこころもしらずくろかみの みたれてけさはものをこそおもへ	あきかせにたなびくものたえまより もれいつるつきのかけのさやけさ	あわじしまかようどりのなくこえに いくよねさめぬすまのせきもり	せをはやみいわにせかるるたきがわの われてもすゑにあはむとそおもふ	わたのほらこぎいてみればひさかたの くもぬにまかふおきつしらなみ